

朝夷奈一代記・全

特60

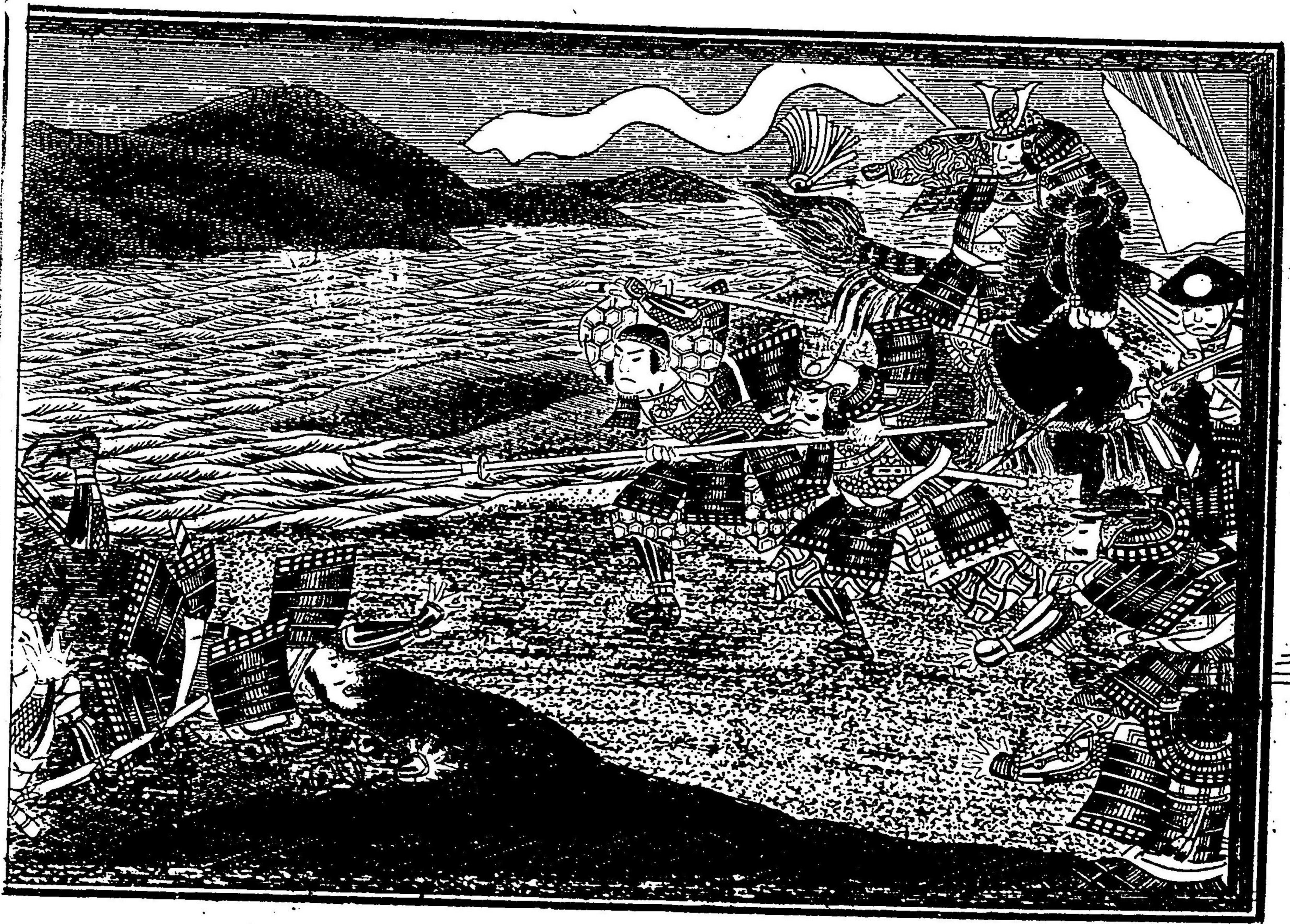
113

特60
113

No 18909/22



明七

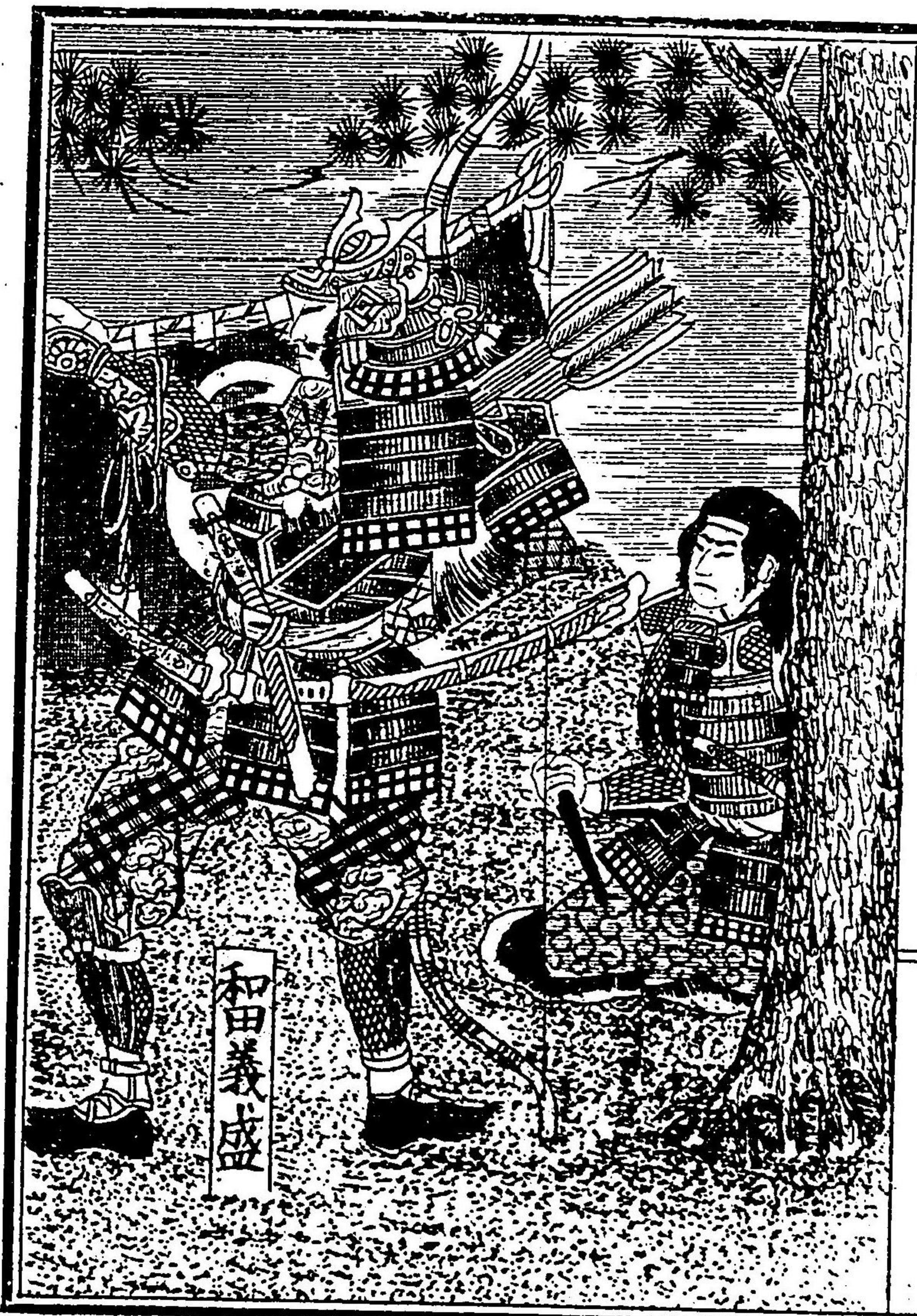


絕
千里不
重
旌旗輜





朝比奈



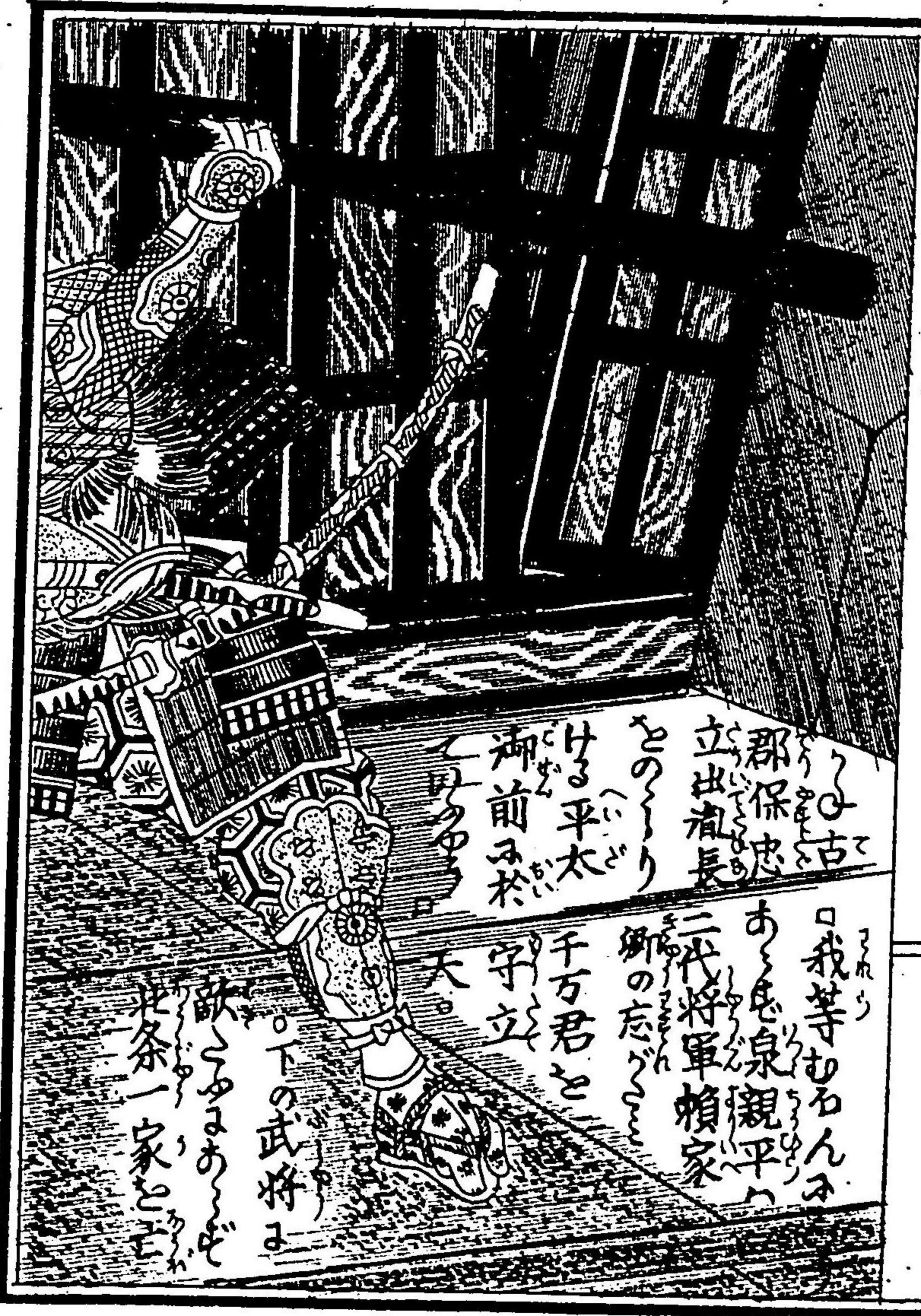
和田義盛

月七



よゆふ元
来義時和田と不
和ありふ三浦一族
の面前より瀬長
と面縛の時、廷尉は渡し
義盛不耻と身ふとこりえ

五



古くは
郡保忠
立出流長
の
けり平太
御前ふ於

我等む石ん
あゝ泉親平
二代將軍頼家
郷の忘
千万君と
守立
大

下の武将
北条一家と



朝比奈

あき
尼御臺
聲とて
匹夫粗
が
きけ
と憤り横
怒り終
州小流
る義

今
内
鎌倉
とて天
奮
と



山時兼三浦一族を語り北条
と七きんとを企てける
將軍是。

○保忠ハ
北条の館マ
ち討破りて幕
府をさし
て進と
入保忠
ハ西の門マ
北条時房
等と戦
ひ義清
ハ北の



○とさきもどろ
きぬひし御所へ遊
近國の大か名と
語りひける和
ハ五月
三日は軍と
出先陣ハ朝
比奈義秀
るり後陣ハ
和田左衛門
尉嫡子常盛次男朝盛
等都合五千人あり義清。

ハ北の
ひ波多
野忠
総本と
△義秀ハ
大手不向ハ
潮田義季
本と勇戦



景直と打殺せ夫あり
南門不押寄せ
足利義氏

秀の
頃
勇力を
大盤石を扉
不投付けれ
関貫も折
んとせ

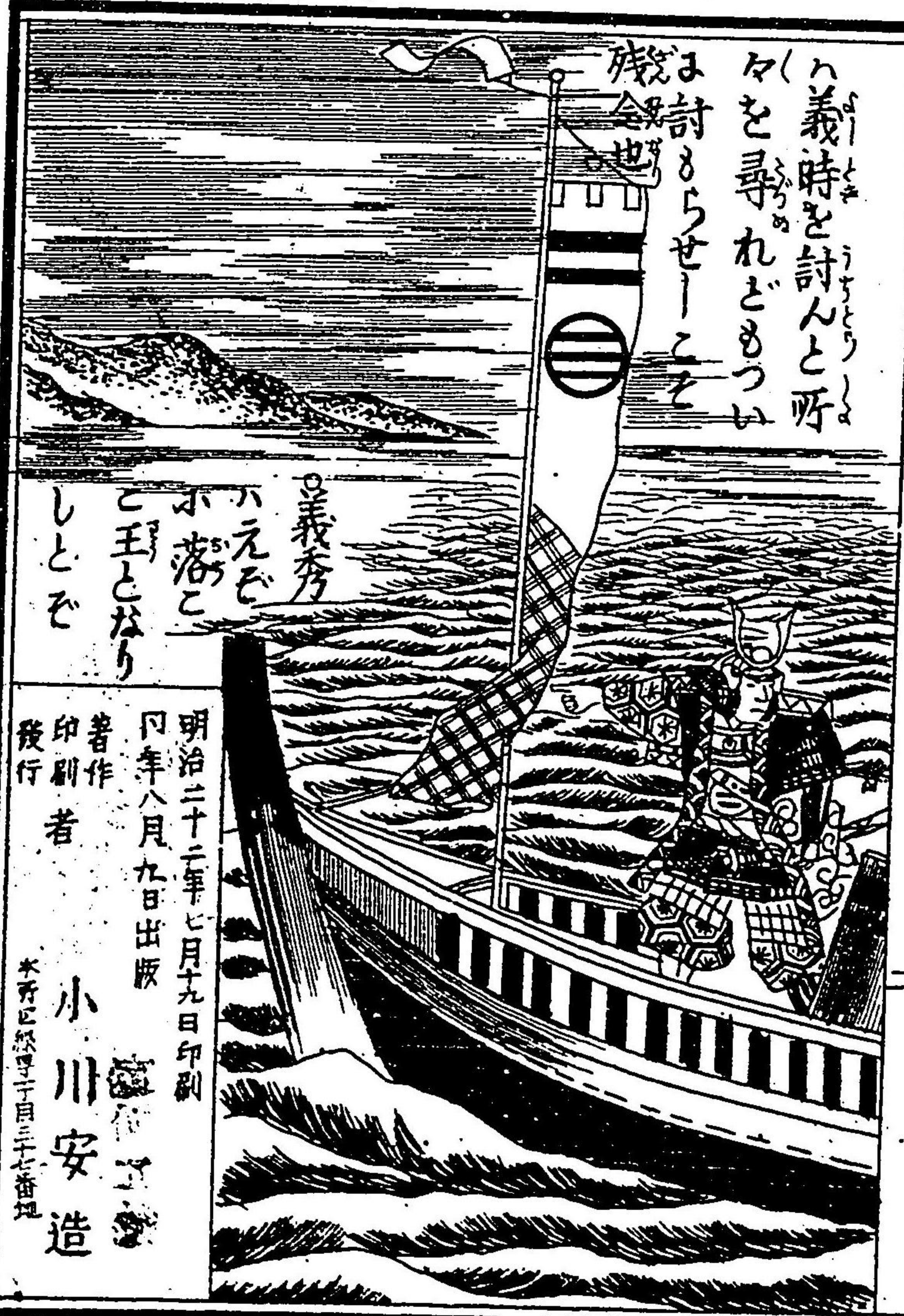
朝比奈

○義秀終不門を中倒し
ければそれふらして死せり
自の敵去れを寄せし
乱入て御所不
火とけられ
軍ハ法華堂と
屋ハ義時
逢来



守兵
ホ大ひま恐れ
けり

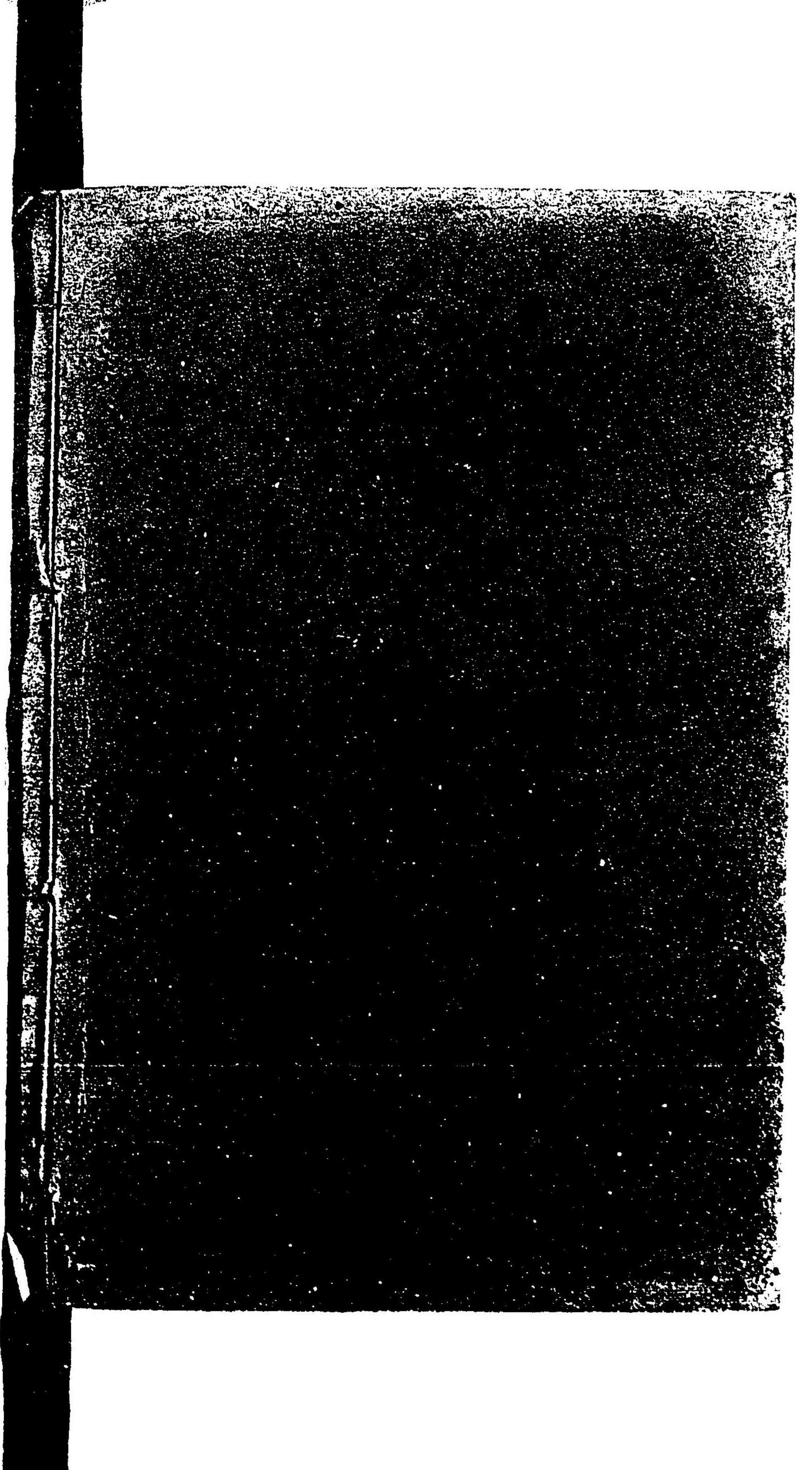
△義時ハ早くも
法華堂不至り
御家人と下り
して守護さ
せしむ義清



ハ義時を討んとす
々を尋れどもついで
は討らせしこそ
残金也

義秀
ハ元を
小落こ
こ王となり
しとぞ

明治二十二年七月十九日印刷
四年八月九日出版
著者 小川安造
印刷者
發行
水戸正徳堂千原三七番地



特60
113

091911-000-7

特60-113

朝夷奈一代記

小川 安造 / 刊

M22

DBP-0009

